

「五年のあゆみ施設長雑感」

養護老人ホーム熱海伊豆海の郷
ケアハウス熱海伊豆海の郷
施設長 徳田 恒貴



熱海駅から伊豆山（東京）方面に向かい車で5分。

左曲り道筋から見える施設全景には、いつ見ても素晴らしい景観だなと我ながら惚れ惚れしてしまいます。山腹の木々に埋もれる歴史と、由緒ある伊豆山神社を横に抱き、北棟・南棟の瀟洒な建物は、大型ホテルと見が違えるほどの迫力があります。

平成17年2月、熱海伊豆海の郷開設準備室マネージャーを拝命して以来、早いもので6年が経過しました。着任当時は、第1期工事（北棟「養護老人ホーム・ケアハウス」）が着手したばかりで、敷地は基礎部分の掘り下げが始まった頃でした。

縁あって法人職員となってわずか3か月後の異動にも、30年のサラリーマン人生、別に考えることも苦にすることもなく着任したことが昨日のことのよう気がします。

この事業計画が、湖山グループの最大規模の施設計画であり、養護老人ホームをはじめケアハウス・特養など全個室200床という、全国でも例のない複合型介護福祉施設ということも赴任後に詳細を知りました。当時を振り返りますと、ことの重要性や恐ろしさを知らない、正に知識・経験がないことが幸いしたような感じがします。

完成するまでの間、静岡県や熱海市の担当者との意見調整・打ち合わせにおいて、多くの課題に直面しました。その苦しかったことの一つ一つが、貴重な経験と財産になっていることを思いますと、この人事を決断された理事長や幹部の方々の想いに今、改めて感謝の念を抱かずにはられません。

平成15年7月の公募決定を受け、北棟開設が平成18年3月、南棟（特養）開設が平成19年2月、実に足掛け3年6か月の大工事を経てグランドオープンした日は、その喜びと緊張に胸がいっぱいになりました。

しかしながら、この事業がこれで終了ではなく、それからがいかに大変であったかなどは、その時には思いもしませんでした。

採用と離職の繰り返しに頭を悩ませたこと。質の向上、サービスの向上を目指し教育の徹底を推し進めるなど、まずは、内部の体制強化が当面の大きな課題でした。特養満床も実に困難を極めました。様々な課題に直面しながら多くの仲間とともに悩み、もが

き苦しみ施設運営が軌道に乗るまで3年がかかりました。

しかし、いま改めて考えてみますと、苦しんだ一つ一つが貴重な財産であったことや、このような状況を乗り越えてきたからこそ、その仲間が現在の施設運営の要として大きく成長したのだと痛感しています。



五年のあゆみを確認するに当たり、社会福祉法人として、福祉サービスの更なる向上と、熱海地域への社会福祉を推進しなければならないという使命を役職員全員で意識しながら今後の施設経営に邁進していく考えです。

